

保証書

この製品は、厳密な品質管理および検査を経てお届けしたものです。正常な使用状態において、万一故障した場合には、お買い上げ販売店に必ず本保証書を提示の上、修理を依頼してください。別掲の保証規定により無料で修理いたします。

※印欄に記入がない場合は、無効となりますので、お買い上げ時に必ず記入の有無をご確認ください。

商品名	RT-519DX	
保証期間	※ お買い上げ年月日	1年間
	平成 年 月 日から	
※ お客様	住所 〒	電話
	氏名	様
※ 販売店	店名	印
	住所 〒	電話

本保証書は再発行いたしませんので大切に保管してください。



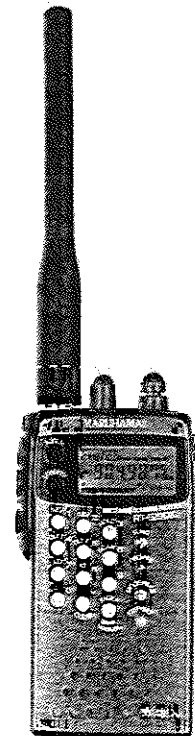
〒232横浜市南区白妙町4丁目43番地4

電話：(045) 251-2606

MARUHAMA
UHF/FMマルチバンドレシーバー

RT-519DX

取扱説明書



RT-519DXをお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この取扱説明書は本機を正しくお使いいただくためのガイドブックです。ご使用になる前に本書をよくお読みになり、内容を十分理解された上でご使用くださるようお願いいたします。

また、本書はいつもお手元において都度ご参照ください。

目次




	ページ
1. 安全についてのお願いとご注意	1
2. 製品の構成	6
3. 本機の有する機能と特長	7
4. ご使用になる前に	8
1. 電源について	8
2. 乾電池の入れかた	8
3. 付属品の取付け方法	8
5. 操作方法 ステップ1	9
〈受信してみよう〉	
1. 名称とはたらき	9
2. 簡単受信してみよう	9
6. 操作方法 ステップ2	13
1. 各部の名称とはたらき	13
2. 受信エリアについて	16
3. 聴きたい周波数をダイレクト受信する	17
4. プログラム受信	18
5. 受信モードの設定	19
6. チャンネルステップの設定	19
7. 秘話通信の解説	20
7. 操作方法 ステップ3	21
1. メモリーの登録	21
2. プライオリティ受信	25
8. 盗聴電波の受信	28
1. 盗聴電波の受信方法	28
2. 盗聴器の場所の特定	28
9. ファンクションキーを使用した機能	29
10. イヤホンで聴く場合	31
11. 故障とお考えになる前に	32
12. 主な仕様	33

1. 安全についてのお願いとご注意

安全についてのお願い

本機を安全にご使用いただくには正しい操作と安全に関する注意事項をお守りいただくことが不可欠です。本書では、最初に、もしお守りいただかないと重大な人身事故につながるおそれのある事項を“警告”として掲げています。次いで、もしお守りいただかないと使用者が、けがをしたり、製品の損傷や故障につながるおそれのある事項を“注意”として掲げています。また、“法的規制”、“機能上の制約”についても説明しています。

本書では“警告”と“注意”に関し、マークを付与して注意を喚起しています。それらの使用区分は次のとおりです。なお、各マークの外枠の中の小マークは具体的な内容を示します。

-  : 警告、注意(特定しない“警告”と“注意”を示します。)
-  : 禁止(“警告”と“注意”の内、してはいけないことを示します。)
-  : 強制(“警告”と“注意”の内、しなければならないことを示します。)

本機をご使用になる前にこれらの内容をよくお読みになり、十分理解の上操作してください。“警告”や“注意”は本機を本書に規定する目的で使用する場合のみを想定しています。本書に書かれていない方法での使用は絶対に避けてください。規定外の方法でご使用になったことによって発生した事故などについて、弊社は一切の責任を負いません。





なお、本書を紛失、汚損された場合は切手400円分を同封の上弊社宛ご請求ください。

安全についてのご注意


⚠ 警告

(人身の安全のためにお守りいただくこと)




使用場所、使用環境

-  ■ 自動車、自転車など乗り物を運転中に操作しないでください。乗り物の運転中に本機を操作することは、交通事故の原因になりますので絶対に避けてください。
-  ■ 人混みの中では使用しないでください。アンテナが目などに当たり、けがの原因になります。
-  ■ 本機に水がかかる可能性のある場所で使用しないでください。風呂場では使用しないでください。また、雨天時、海岸、水辺での使用時には水がかからないよう十分注意してください。水がかかった場合はすぐに拭き取ってください。また、万一内部に水が入った場合は直ちに本機の電源を切り、ACアダプターを使用中の場合にはコンセントから抜いてください。そのまま使用しますと、火災や感電の原因になります。
-  ■ 雷が鳴り始めたらアンテナには触れないでください。雷鳴時にアンテナに触れますと感電の原因になります。



分解、改造の禁止

-  ■ キャビネットは絶対にあけないでください。本機は精密部品を多数搭載しています。分解や改造を加えますと故障が起き、また感電の原因になります。

電源、電源コードの取扱い

-  ■ 定格以外の電圧で使用しないでください。(ACアダプター使用時) 定格以外の電圧を加えますと異常に発熱し、火災や感電などの原因になります。
-  ■ 外部電源を使用する場合は必ず付属の弊社純正品(ACアダプターまたはシガープラグ)を使用してください。他社製アダプターを使用しますと故障の原因になるのみならず、異常に発熱し、火災の原因になります。また、本機同様、ACアダプターおよびシガープラグの分解や改造は避けてください。
-  ■ 電源コードを傷つけたり、傷んだ電源コードを使用しないでください。電源コードが傷んだ場合は販売店から新品を購入してください。そのまま使用しますと火災や感電の原因になります。




異状検出時の対処

-  ■ 発熱、発臭、発煙を検出した場合には直ちに使用を中止してください。
-  これらの異状を検出した場合には直ちに本機の電源を切り、ACアダプターを使用中の場合はコンセントから抜き使用を中止してください。そのまま使用しますと、火災や感電の原因になります。修理は販売店に依頼してください。お客様ご自身での修理は絶対に避けてください。




▲ 注意

(けがや本機の故障を避けるためにお守りいただくこと)


使用環境、取扱い

-  ■ 衝撃や振動を加えないでください。
衝撃や振動を加えますと、精密部品が壊れ故障の原因になります。
-  ■ テレビ、ラジオなどの電子機器から離れた場所でお使いください。
強い電磁波を発する電子機器の近くでは正常に動作しない可能性があります。
-  ■ 規定範囲内の温度環境下でお使いください。
本機は-10℃～+60℃の範囲で動作します。この範囲外で使用しますと故障の原因となります。

電池の取扱い

-  ■ 電池を本機に挿入する場合は極性(プラス、マイナスの方向)に注意し指示どおりに正しく挿入してください。
間違えて挿入しますと、乾電池の破裂、液漏れにより、けがをしたり故障の原因になります。
-  ■ 新旧の電池を混ぜて使用しないでください。
電池の劣化を早めるとともに破裂、液漏れにより、けがをしたり故障の原因になります。
-  ■ 使用済みの電池を普通のゴミと一緒に捨てないでください。
使用済みの電池は環境保全のため、地域で定められている“電池回収日”に所定の箱に入れるか、あるいは電器店の“電池回収箱”などへ入れてください。

保守

-  ■ 長時間ご使用にならない時はACアダプターをコンセントから抜いてください。
そのまま放置しますと故障の原因になります。



■ ケースが汚れた場合は柔らかい布またはティッシュペーパーで拭き取ってください。



シンナー、ベンジン、化学雑巾などを使用しますと、本機の形状が変形するおそれがあります。また、お手入れの際は必ず本機の電源を切り、ACアダプターはコンセントから抜いてください。


法的規制



■ 電波法を遵守してください。

電波法第五十九条により、特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受し、その存在もしくは内容を第三者に漏らしたり、窃用することが禁止されています。厳重に注意してください。

機能上の制約

- 音声、雑音(ザー音)とは違う信号音を受信することがあります。
本機はアナログ通信を対象としており、デジタル通信や制御チャンネル通信、また音声反転方式以外の秘話方式を使用した通信内容を受信することはできません。その場合、雑音(ザー音)とは違う信号音を受信します。
- 内部干渉により指定帯域外の電波を受信することがあります。
- 使用場所により受信できない場合があります。
電波の遮断された建物の中、電波の届かない山中、強い電波が発射されている放送局の近辺などでは受信できない場合があります。
-  ■ 日本国内で使用してください。
本機の仕様は日本国内向けとなっています。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。

2. 製品の構成

お買い上げいただいたRT-519DXは次の品目から構成されています。

- 本機 1台
- ラバーアンテナ 1本 (付属品)
- ACアダプター(AC100V用) 1個 (付属品)
- イヤホン 1個 (付属品)
- ハンドストラップ 1本 (付属品)
- 取扱説明書兼保証書(本冊子) 1冊 (付属品)

また、別売品として次の2品目があります。

- マグネット式車載アンテナ (MRA-5)
- カー電源用シガーライタープラグ (RT-D)

3. 本機の有する機能と特長

■ 音声情報の高感度受信

マイクロコンピュータを始めとする最新のハイテク技術の採用により、音声情報を高感度で受信します。

■ 簡単操作

液晶表示(LCD)を確認しながら、簡単な操作で各種の設定が行えます。

■ 18エリアをワンタッチ受信

本機では18エリア(2バンク×9エリア)があらかじめメモリーに登録されています。聴きたい周波数帯がワンタッチで呼び出せます。

■ メモリーへの登録

チャンネルメモリー(特定の周波数の指定)およびエリアメモリー(幅を持って周波数帯を指定)をメモリーバンクへメモリー登録することができます。

■ プライオリティ・チャンネルとパス・チャンネルの設定

特定のチャンネルをプライオリティ・チャンネルとして指定できます。プライオリティ・チャンネルについては3秒毎に信号検索を行い、信号が存在すれば優先的に受信します。また、受信を回避したいチャンネルをパス・チャンネルとして指定できます。パス・チャンネルに指定されたチャンネルからは受信しません。

■ 盗聴電波の受信

VHF帯及びUHF帯を使用した無線式盗聴器の発信する電波を受信することができます。なお、無線式盗聴器によく使用される周波数があらかじめメモリーされています。

■ 秘話解読

コードレス電話の秘話通信(音声反転方式)を解読します。

■ 受信状態が一目でわかるレベルメーター

受信レベルをレベルメーターに表示します。

■ その他便利な機能

次の機能を内蔵しています。

- アッテネーター機能
- チャンネル・リバース
- キーロック
- バックライト照明
- 操作音の消去

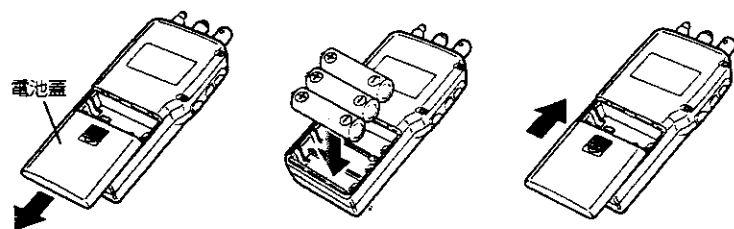
4. ご使用になる前に

1. 電源について

本機の電源は乾電池(単3形 3本)を使用します。
アルカリ乾電池の場合は、約12時間連続使用できます。
また、付属のACアダプターにより、家庭用電源(AC 100V)でもご使用になれます。

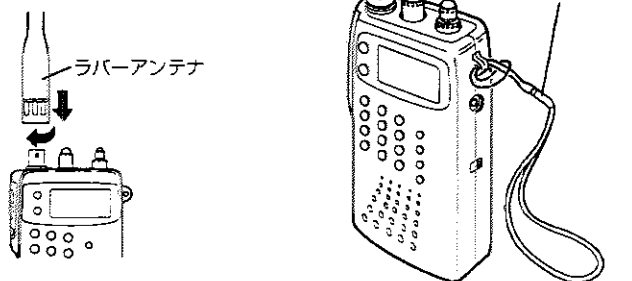
2. 乾電池の入れかた

- ① 本体背面の電池蓋を矢印の方向にスライドして外します。
- ② 乾電池(単3形 3本)の極性を間違えないように入れます。
- ③ 電池蓋をスライドして固定します。



3. 付属品の取付け方法

- ① アンテナの取付け
アンテナ端子に付属のラバーアンテナを取付けます。アンテナ端子の突起部とアンテナの溝を合わせて押し込み、1/4回転まわして固定します。
- ② ハンドストラップの取付け
本体のハンドストラップ取付け穴に、図のように通して取付けます。



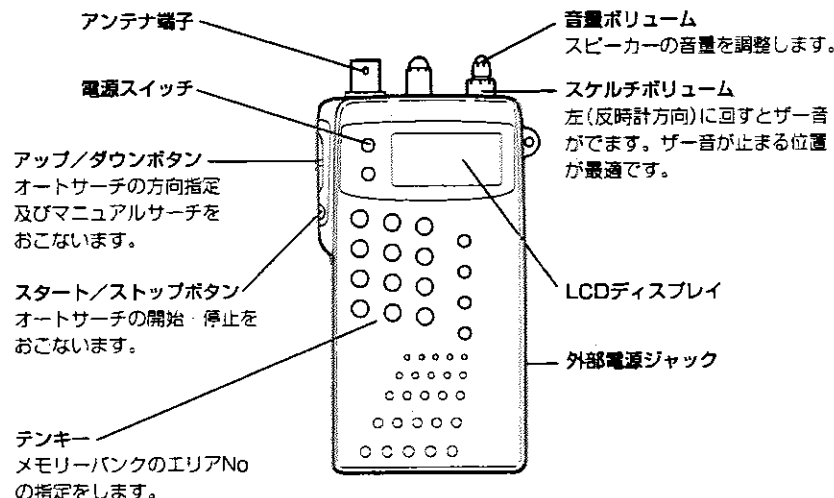
ちょっとひと言

付属のラバーアンテナ以外に市販のアンテナも使用できます。
市販のアンテナを使用する場合は、目的の周波数の場合、インピーダンスが50Ωのものを使用してください。

5. 操作方法 **ステップ1**

〈受信をしてみましょう〉

1. 各部の名称とはたらき



2. 簡単受信をしてみよう

① エリアをサーチする

メモリーバンクに登録済みのエリアをオートサーチします。
メモリーバンクには下記のエリアが登録されています。

エリアNo	BANK A	BANK B
1	NTT自動車・携帯電話基地局	NTT自動車・携帯電話移動局
2	新電電系携帯電話基地局	新電電系携帯電話移動局
3	コードレス電話	タクシー無線
4	アマチュア無線 (VHF帯)	アマチュア無線 (UHF帯)
5	業務用無線 (UHF帯)	MCA業務無線
6	パーソナル無線	航空無線電話・マリネットホン
7	消防・救急無線	簡易無線・業務無線
8	航空無線 (VHF帯)	コンビニエンス・ラジオホン
9	道路公園・特定小電力無線	盗聴電波

操作方法

(例) BANK[A]のエリア[1]に登録してある受信エリア(NTT自動車・携帯電話基地局)をオートサーチして聴く場合

- 1 電源を入れます。
電源スイッチ(POWER)を押すと、LCDディスプレイが表示します。
- 2 音量を調整します。
音量ボリューム(VOL)を回して、適度な音量に調整します。
- 3 スケルチを調整します。
スケルチボリューム(SQL)を回してザー音が止まる位置に調整します。

ちょっとひと言

スケルチボリュームを右(時計方向)に回し過ぎると、オートサーチはしますが、弱い電波を受信できなくなります。また、左(反時計方向)に回し過ぎるとオートサーチしなくなります。(START・STOP)ボタンを押して、スケルチボリュームの位置を確認してください。

- 4 バンクモードにする。
(BANK・MANUAL)キーを押して、[BANK]にします。
キーを押す度にBANK↔MANUALが切り換わります。

- 5 BANK[A]のエリアNo[1]を指定する。
テンキーの[1]を1回押します。
エリアNoを指定すると、LCDディスプレイにそのエリアの最初のチャンネル(周波数)・受信モード・チャンネルステップ・ディレイを表示します。

ディスプレイ表示

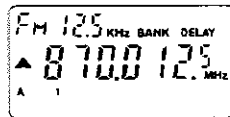


ちょっとひと言

BANK[B]を指定する場合は、テンキーを連続して2回押します。
例えば、BANK[B]のエリア[1]を指定する場合は、テンキーの[1]を1秒以内に2回押します。

- 6 サーチ(自動選局)する。
(START・STOP)ボタンを押すと、LCDディスプレイに“▲”マークが点滅して、最初のチャンネルより上側にサーチを開始します。

ディスプレイ表示



ちょっとひと言

オートサーチ中にアップ(▲)またはダウン(▼)ボタンを押すと、押した方向にオートサーチします。

- 7 チャンネルを受信する

使用しているチャンネルがあると、そのチャンネルでサーチを停止して受信状態になります。
LCDディスプレイの“▲”マークの点滅が止まり、[BUSY]マークを表示します。
また、受信電波の強さをレベルメータが表示します。

ディスプレイ表示



- 8 受信中のチャンネルが終了または電波が非常に弱くなって受信できない場合は、次に使用しているチャンネルまでサーチを開始します。

注意

LCDディスプレイに“HOLD”を表示していたり、“▲”マークが消えている場合はそのチャンネルで受信待ちになっています。(サーチしません)
サーチさせる場合は(START・STOP)ボタンを1回押します。

- 9 チャンネルを受信中に他のチャンネルをサーチしたい場合は、(START・STOP)ボタンを押します。
“▲”マークが点滅して、次のチャンネルまでサーチを開始します。

ちょっとひと言

- 電源スイッチを押した時に、LCDディスプレイが何も表示しなかったり、“[C]”マークを表示している場合は、電池が消耗していますので電池交換をおこなってください。
- キーロック(ON)表示
LCDディスプレイに“ON”が表示している場合は、テンキーのキー操作が何もできなくなります。
(LIGHT KEY)を2秒以上押し続けると、キーロックを解除します。
- HOLD(ホールド)とDELAY(ディレイ)
LCDディスプレイに表示しているHOLDまたはDELAYとは、オートサーチまでの受信待ち時間条件のことです。HOLDは一度電波を受信すると、電波がなくなっても、そのチャンネルで受信待ちの状態になります。
一方、DELAYは一定時間(設定された時間)受信待ちをした後、オートサーチを始めます。ディレイ時間は各エリアごとに初期設定し、メモリー登録しています。
*ディレイ時間の設定を変えることもできます。

① LCDディスプレイ(液晶表示)

周波数・チャンネルステップ・受信モードなどの表示と、各動作モードを表示します。

② キーボード

受信エリア・周波数などを指定する数値キーと、メモリー登録などの機能をもった機能キーがあります。

③ 電源スイッチ……(POWER)

電源をON/OFFします。
スイッチを押すと電源が入り、再度1秒以上押すと、電源が切れます。

④ ライト/キーロック・キー……(LIGHT-KEY)

液晶ディスプレイ及びキーボードのライトを一定時間点灯します。
また、2秒間の押し続けによりキーロック動作となり、キーボードのキー操作ができなくなります。

⑤ スタート/ストップ・ボタン……(START-STOP)

自動選局(サーチ)の開始及び停止をします。

⑥ アップ/ダウン・ボタン……(▲/▼)

自動選局の方向指定・マニュアル選局・メモリーチャンネルの検索などをします。

⑦ 音量ボリューム……(VOL)

スピーカー及びイヤホンの音量調整ボリュームです。
右(時計方向)に回すと、音量が大きくなります。

⑧ スケルチボリューム……(SQL)

ノイズスケルチの調整をします。左(反時計方向)に回すとザー音が聞こえ、右(時計方向)に回すとザー音がなくなります。
ザー音が出る直前の位置が最適です。

⑨ シフトボリューム……(SHIFT)

秘話通信の解読時に、キャリア調整をして、音声を聞きやすくします。

⑩ アンテナ端子(BNCコネクタ対応)

付属のラバーアンテナを接続します。
また、市販のアンテナ(BNC型)が接続できます。

⑪ 内蔵スピーカー

⑫ イヤホンジャック……(EAR)(モノラル)

付属のイヤホンを接続します。イヤホンを接続すると、スピーカーからは音が出ません。

⑬ 外部電源ジャック……(DC 12V)

付属のACアダプターを接続します。ACアダプターを接続する場合は、本体の電源スイッチをOFFにしてから接続してください。
別売のカー電源用シガーライタープラグも使用できます。

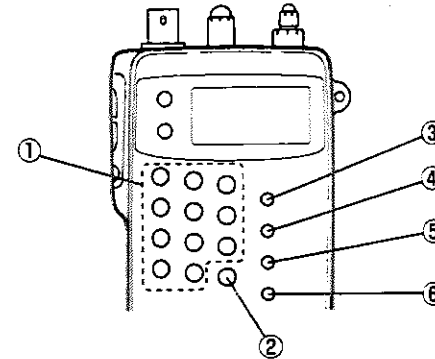
⑭ ハンドストラップ取付け部

付属のハンドストラップを取付けます。

⑮ 電池蓋

電池交換時にスライドして外します。

—— キーボード ——



① 数値キー (0) ~ (9), (*)

周波数・受信エリアNo及びメモリーチャンネルを指定する時に使用します。

② バンク/マニュアル・キー (BANK-MANUAL)

バンクモード→マニュアルモードの切換えをします。

③ ファンクション・キー (FUNC)

秘話解除・メモリーの登録及び消去・チャンネルリバース・ディレイ時間の変更・アッテネーターON/OFFなどをおこなう時に使用します。

④ プログラム/プライオリティ・キー (PRO-PRI)

プログラムサーチの開始及び停止をします。
また、2秒間の押し続けにより、プライオリティ受信の開始及び停止をします。

⑤ モード/パス・キー (MODE-PASS)

受信モード AM→FMの切換えをします。
また、2秒間の押し続けにより、受信中のチャンネルをパスメモリーに登録します。

⑥ ステップ/セット・キー (STEP-SET)

チャンネルステップを切換えします。
また、2秒間の押し続けにより、チャンネルメモリーの登録モードになります。

2. 受信エリアについて

本機は、よく聴く受信エリアを18エリア(2バンク×9エリア)に分けてメモリーバンクにメモリー登録しています。お聴きになりたい受信エリアを、ワンタッチで呼び出せます。

メモリーバンクに登録済みの受信エリア

バンク	エリア No	受信エリア	受信周波数 (MHz)	チャンネルステップ (KHz)	受信モード	ディレイ時間 (秒)
A	1	NTT自動車・携帯電話基地局	870.0125~884.9875	12.5	FM	2
	2	新電電系携帯電話基地局	843.0125~845.9875 860.0125~869.9875	12.5	FM	2
	3	コードレス電話	380.2125~381.3000	12.5	FM	2
	4	アマチュア無線 (VHF帯)	144.0000~146.0000	10	FM	6
	5	業務用無線 (UHF帯)	364.4000~415.4500	12.5	FM	6
	6	パーソナル無線	897.0375~904.9875	12.5	FM	6
	7	消防・救急無線	142.0400~154.3700	10	FM	6
	8	航空無線 (VHF帯)	118.0000~142.0000	50	AM	6
	9	道路公団無線 特定小電力無線	149.4500~150.8500 340.8500~440.3625	12.5	FM	6
	0	チャンネルメモリー	メモリー登録されたチャンネル			
B	1	NTT自動車・携帯電話移動局	925.0125~939.9875	12.5	FM	2
	2	新電電系携帯電話移動局	898.0125~900.9875 915.0125~924.9875	12.5	FM	2
	3	タクシー無線	450.0125~451.5000	12.5	FM	6
	4	アマチュア無線(UHF帯)	430.0000~440.0000	10	FM	6
	5	MCA業務無線 JSMR無線	834.0125~837.9875 850.0125~859.9875	12.5	FM	2
	6	航空無線電話 マリネットホン	830.0125~833.9875 885.0125~888.9875	12.5	FM	2
	7	簡易無線・業務無線	142.1800~159.1700	10	FM	6
	8	コンビニエンス・ラジオホン	815.0125~820.9875	5	FM	6
	9	盗聴電波	134.0000~442.9000 49チャンネル	5	FM	6
	0	エリアメモリー	メモリー登録されたエリア			

——ちょっとひと言——

- チャンネルステップ・受信モード及びディレイ時間は、変更することができます。
- チャンネルメモリー及びエリアメモリーにメモリー登録するときは、「メモリーの登録」をご覧ください。→P21、P22

3. 聴きたい周波数(チャンネル)をダイレクトに受信する

お聴きになりたい周波数(チャンネル)をキーボードより入力し、ダイレクトにそのチャンネルを受信する。

操作方法

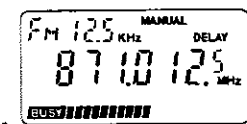
(例) 871.0125MHzのチャンネルをダイレクトに受信する。

① マニュアルモードにする

(BANK・MANUAL)キーを押して [MANUAL] にします。

② 受信したいチャンネル[871.0125]MHzを入力します。
テンキーにより、[871.0125]の順に入力します。
入力ミスした場合は、(CLEAR)キーを2回押して、再度入力します。

ディスプレイ表示



③ (ENTER) キーを押して、入力した周波数の確認をします。

キーを押すと、設定したチャンネルで受信状態になります。

④ ダイレクト受信(マニュアルモード)を解除する時は、(BANK・MANUAL)キーを押して、[BANK] にします。

——ちょっとひと言——

- (ENTER) キーを押すと、入力したチャンネルの小数点以下の桁がチャンネルステップと一致するように自動補正されます。
例えば、チャンネルステップが12.5KHzの場合、871.015を入力すると、871.025になります。
- ダイレクト受信が可能な周波数範囲は、108.0~170.0MHz、322.0~452.0MHz、770.0~999.995MHzの範囲内です。受信周波数範囲以外のチャンネルは受信できません。
- マニュアルモードにするとエリア指定の範囲がなくなり、上記受信周波数範囲での受信ができます。オートサーチ及びマニュアルサーチも、上記範囲内で可能です。

4. プログラム受信

複数の受信エリアを順番にサーチします。

操作方法

(例) バンク[A]のエリア③、⑥とサーチした後、バンク[B]のエリア⑤、⑦を連続サーチする。

- 1 バンクモードにする。
[BANK-MANUAL]キーを押して切り換えます。
- 2 最初のエリアNoを指定する。
テンキーの(3)を1回押します。
- 3 [PRO-PRI]キーを押す。
キーを押すとプログラム受信モードとなり、エリア③が点滅します。
- 4 プログラム受信するエリアを指定します。
テンキーにより入力します。1回押しでバンク[A]、2回押しでバンク[B]の指定になります。
(例)の場合は、(6)→(5)(2回押し)→(7)(2回押し)の順に入力します。
- 5 [START-STOP]ボタンを押します。
最初のエリアよりオートサーチを始めます。
サーチ中のバンク(AまたはB)及びエリアNoが点滅します。
- 6 プログラム受信を解除する時は、[PRO-PRI]キーを押します。



ちょっと一言

- プログラム受信は、最大20エリアまで指定できます。
- 同じ受信エリアは、2回以上指定できません。同じ受信エリアを2回指定した場合は、その受信エリアは取り消されます。

5. 受信モードの設定

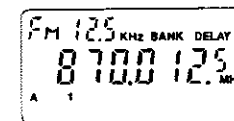
受信周波数の全帯域で受信モードをFM→AMに切り換えることができます。また、切り換えた受信モードでオートサーチ及びマニュアルサーチができます。

操作方法

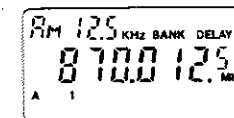
(例) バンク[A]のエリア①の受信モードをAMモードでサーチする場合

- 1 バンク[A]のエリア①を呼び出す。
「エリアをサーチする」P9をおこなって、受信エリアを指定します。
バンク[A]のエリア①の場合、初期の受信モード[FM]モードを表示します。
- 2 受信モードを[AM]に切り換える。
[MODE-PASS]キーを1回押します。
キーを押す度にFM→AMと交互に切り換わります。
- 3 [START-STOP]ボタンを押します。
バンク[A]のエリア①の受信エリアをAMモードでオートサーチします。

ディスプレイ表示



ディスプレイ表示



ちょっと一言

- 受信モードを変更した場合、受信中の音声が変わったり、受信エリアにより受信できなくなる場合があります。
- 受信モードを変更した後、他のエリアに切り換えたり電源を切った場合は、初期設定の受信モードに戻ります。

6. チャンネルステップの設定

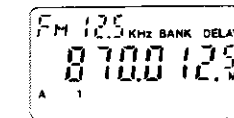
受信周波数の全帯域でチャンネルステップを変更できます。また、変更したチャンネルステップでオートサーチ及びマニュアルサーチができます。

操作方法

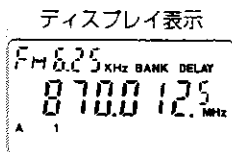
(例) バンク[A]のエリア①のチャンネルステップを[6.25KHz]に変更してオートサーチする場合

- 1 バンク[A]のエリア①を呼び出す。
「エリアをサーチする」P9をおこなって、受信エリアを指定します。
バンク[A]のエリア①の場合、初期のチャンネルステップ[12.5KHz]を表示します。

ディスプレイ表示



- ② チャンネルステップを[6.25KHZ]に変更する。
[STEP.SET] キーを押します。
キーを押す度に、チャンネルステップが5→6.25
→10→12.5→25→50と切り換わります。
- ③ [START.STOP] ボタンを押します。
バンク[A]のエリア[1]の受信エリアをチャンネル
ステップ[6.25KHZ]でオートサーチします。



ちょっとひと言

- チャンネルステップを小さく(狭く)設定した場合は、エリア内を細かく受信します。また、大きく(広く)設定した場合は、エリア内を素早くサーチすることができます。
- チャンネルステップを変更した後、他のエリアに切り換えたり電源を切った場合は、初期設定のチャンネルステップに戻ります。

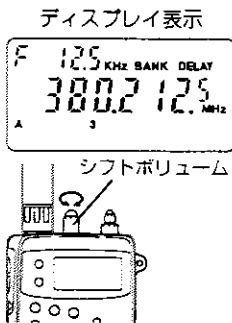
7. 秘話通信(スクランブル)の解説

コードレス電話の秘話通信機能(スクランブル機能)は、主に音声反転式が使用されています。秘話機能がかった通信を受信する場合、そのままでは音声として聞くことはできません。本機は、コードレス電話の音声反転方式の秘話通信を解読することができます。

操作方法

秘話機能(スクランブル)がかかった通信を受信した時に、[FUNC] キーを2回押します。

- ① [FUNC] キーを押す。
LCDインジケータが“F”を点滅します。
- ② 5秒以内にもう一度 [FUNC] キーを押す。
秘話通信(スクランブル)を解除します。(音声反転
します。)
- ③ シフトボリューム [SHIFT] を調整する。
シフトボリュームを回して、音声聞き取りやす
い位置に調整します。



ちょっとひと言

- 秘話解読機能は、受信中のチャンネルのみ有効です。オートシークなどで、受信チャンネルが変わった場合は、秘話解読機能が解除されます。
- 秘話通信がかかっていないチャンネルを受信中に、秘話解読機能を操作した場合は、音声反転した状態になります。元の状態に戻す場合は、[FUNC] キーを2回押してください。秘話解読機能が解除されて、秘話解読前の音声に戻ります。
- 本機は、音声反転方式以外の秘話通信を解読することはできません。また、自動車電話及び携帯電話の秘話通信を解読できません。

7. 操作方法 ステップ3

1. メモリーの登録

本機は、チャンネルメモリー(200CH)及びエリアメモリー(1エリア)を、メモリーバンクにメモリー登録することができます。
また、不要なチャンネルをパスするチャンネルバスメモリーやプライオリティチャンネルメモリーを実装しています。

メモリー	メモリー数	メモリー登録
チャンネルメモリー	200CH	バンク[A]のエリア[0]に登録
エリアメモリー	1エリア	バンク[B]のエリア[0]に登録
バスメモリー	150CH	バスメモリーに登録
プライオリティチャンネルメモリー	10CH	プライオリティチャンネルメモリーに登録

① チャンネルメモリーの登録

〈チャンネルをバンク[A]のエリア[0]にメモリー登録する〉

受信中のチャンネルをダイレクトメモリーする

操作方法

(例) 受信中のチャンネル870.0125MHzを(チャンネルNo[100CH])にメモリー登録する。

- ① メモリー登録したいチャンネルを呼び出す。(受信する。)
- ② [STEP.SET] キーを2秒以上押す
チャンネルメモリーの登録モードとなり、LCDディスプレイのメモリーチャンネル部“000CH”が点滅します。
- ③ チャンネルNoを指定する場合
テンキーにより[100]を入力します。
- ④ [ENTER] キーを押す
バンク[A]のエリア[0]にメモリー登録します。



チャンネル(周波数)をメモリー登録する

操作方法

(例) 受信周波数が870.0125MHzのチャンネルを(チャンネルNo [100CH])にメモリー登録する。

- 1 マニュアルモードにする
(BANK-MANUAL) キーを押して [MANUAL] にします。
- 2 受信周波数を入力する
テンキーにより、[870.0125]の順に入力します。
入力ミスした場合は、[CLEAR] キーを2回押して、再度入力します。
- 3 [ENTER] キーを押して、入力した周波数の確認をします。
- 4 [STEP-SET] キーを2秒以上押し続ける
チャンネルメモリーの登録モードになります。
- 5 チャンネルNoを指定する場合
テンキーにより[100]を入力します。
- 6 [ENTER] キーを押す
バンク[A]のエリア[0]にメモリー登録します。
- 7 マニュアルモードを解除する時は、(BANK-MANUAL) キーを押して、[BANK]にします。

ディスプレイ表示

ディスプレイ表示

ちょっとひと言

- チャンネルNoを指定した場合は、指定したチャンネルNoにメモリー登録します。
チャンネルNoを指定しない場合は、メモリー登録した順番のチャンネルNoで登録されます。
- チャンネルNoは[000]CH～[199]CHまで200チャンネルあります。
- 周波数を入力する時は、受信範囲内の周波数を入力してください。

② エリアメモリーの登録

〈エリア(受信周波数範囲)をバンク[B]のエリア[0]にメモリー登録する〉

操作方法

(例) 108.000～170.000MHzの範囲を受信モード[AM]・チャンネルステップ[50KHz]でメモリー登録する場合

- 1 [FUNC] キーを押す
LCDディスプレイが「F」を点滅します。
- 2 (BANK-MANUAL) キーを押す
エリアメモリーの登録モードとなり、LCDディスプレイに「▼」及び「MHz」が点滅します。
- 3 受信モードをAMモードにします。
(MODE-PASS) キーを押して切り換えます。
- 4 チャンネルステップを[50]KHzに設定します。
(STEP-SET) キーを押して切り換えます。
- 5 [108.000]MHzを入力します。
テンキーにより、下限周波数を指定します。
- 6 [ENTER] キーを押す。
LCDディスプレイに「▲」及び「MHz」が点滅します。
- 7 [170.000]MHzを入力します。
テンキーまたはアップ・ダウンキーにより、上限周波数を指定します。
- 8 [ENTER] キーを押す
バンク[B]のエリア[0]にメモリー登録します。

ディスプレイ表示

ディスプレイ表示

ディスプレイ表示

ちょっとひと言

- エリアメモリーを登録する時は、必ず下限周波数を設定してから上限周波数を設定してください。
- エリアを設定する時は、必ず本機の受信周波数の範囲内としてください。受信周波数範囲を超えた場合は、メモリー登録できません。
- 受信モード及びチャンネルステップを指定しない場合は、LCDディスプレイに表示中の受信モード及びチャンネルステップがメモリー登録されます。
- ティレイ時間及びアンテナターを指定する場合は、エリアメモリーをおこなう前に設定してください。ティレイ時間を指定する時はP29、30「ファンクションキーを使用した機能」をご覧ください。

③ パスメモリーの登録と消去

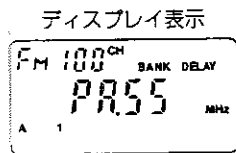
パスメモリーの登録

＜受信中のチャンネルをパスメモリーにメモリー登録する＞

受信に不要なチャンネル(制御チャンネルなど)をパスメモリーに登録しておく、オートサーチ中はメモリー登録したチャンネルをパスします。

操作方法

- 1 不要なチャンネルを受信する
オートサーチ中に不要なチャンネルを受信する。不要なチャンネルがわかっている場合は、ダイレクト受信する。
- 2 (MODE-PASS) キーを2秒以上押す
LCDディスプレイにPASS及びチャンネルを1秒間表示します。
パスメモリーにメモリー登録終了



ちょっとひと言

- パスメモリーは最大150チャンネルまでメモリー登録できます。
登録した順番のチャンネルNo([000]CH→[001]CH→…→[149]CH)でパスメモリーにメモリー登録します。

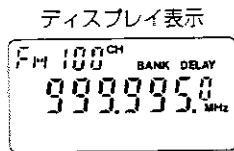
パスメモリーの消去

＜パスメモリーに登録したチャンネルを取り消す＞

操作方法

(例) パスメモリーのチャンネルNo[100]CHに登録したチャンネルを取り消す。

- 1 (FUNC) キーを押す
LCDディスプレイに「F」を点滅します。
- 2 (MODE-PASS) キーを押す
LCDディスプレイに最後に登録したチャンネルを表示します。
- 3 チャンネルNo[100]CHを指定する
テンキーにより、チャンネルNoを入力します。
または、アップ・ダウンボタンで検索します。
- 4 (ENTER) キーを押す
指定したチャンネルNoのパスメモリーを消去します。
- 5 消去モードを解除する時は、(START STOP) キーを押します
また、20秒間の無操作でも解除します。



④ メモリーオールクリア

チャンネルメモリー・エリアメモリー・パスメモリー及びプライオリティチャンネルメモリーにメモリー登録された内容を全て消去し、初期の状態に戻ります。

操作方法

- 1 電源を切ります。
(POWER)スイッチを1秒間押し続けます。
 - 2 テンキーの(0)と(ENTER)キーを押し続けます。
 - 3 電源をONにします。
(POWER)スイッチを押します。
- (0)キーと(ENTER)キーを押したまま、電源ON
- メモリーの消去に約10秒かかります
メモリーの消去中はLCDディスプレイの周波数表示部が全て「0」を表示します。
- 4 メモリー消去が終了すると、電源が切れます。



2. プライオリティ受信

他のチャンネルを受信中でも、プライオリティチャンネルの検索をおこない、信号があれば優先受信します。

プライオリティチャンネルは[000]CH～[009]CHまでの10チャンネルがあります。また、[000]CHに、350.10MHz(速度取締り連絡波)が初期登録されています。

① プライオリティチャンネルのメモリー登録

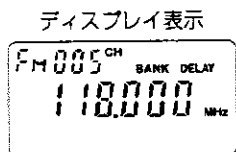
操作方法

(例) 受信チャンネル[118.000MHz]をチャンネルNo[005]にメモリー登録する場合

- 1 (FUNC) キーを押す
LCDディスプレイに「F」が点滅します。
- 2 (PRO-PRI)キーを押す
プライオリティチャンネルの登録モードとなり、LCDディスプレイの「MHz」が点滅します。
- 3 [118.000]を入力します
テンキーまたは、アップ・ダウンボタンの操作により、チャンネルを指定します。
- 4 (ENTER) キーを押す
LCDディスプレイのチャンネルNoが点滅します。

⑤ **(5)**を入力します
テンキーにより、チャンネルNoを指定します。

⑥ **(ENTER)**キーを押す
プライオリティチャンネルにメモリー登録し、
入力したチャンネルでプライオリティチャンネル
の検索を開始します。



⑦ プライオリティチャンネルの登録モードを解除する時は、**(START/STOP)**キーを押します。また、20秒間の無操作でも解除します。

ちょっとひと言

- 受信したチャンネル(周波数)の指定中に、受信モード及びディレイ時間、アッテネーターの指定ができます。(HOLDはできません)
- チャンネルNoを指定しない場合は、メモリー登録した順番のチャンネルNoで登録されます。

② プライオリティチャンネルの消去

プライオリティチャンネルにメモリー登録したチャンネルを取り消す場合は、下記のように操作します。

操作方法

(例) チャンネルNo**[005]**CHに登録したプライオリティチャンネルを取り消す場合

① **(FUNC)**キーを押す
ディスプレイに“F”を点滅します。

② **(CLEAR)**キーを押す
プライオリティチャンネルの消去モードとなり、最後に登録したチャンネル
を表示します

③ チャンネルNo**[005]**を指定します
テンキーまたはアップダウンボタンにより検索
します。



④ **(ENTER)**キーを押す
指定したチャンネルNoのプライオリティチャンネル
を消去します。

⑤ 消去モードを解除する時は、**(START/STOP)**キーを押します。
また、20秒間の無操作でも解除します。

③ プライオリティチャンネルを受信する

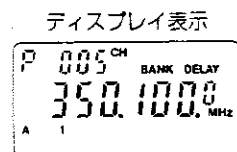
操作方法

(例) 他のチャンネルを受信中に、チャンネルNo**[005]**CHのプライオリティチャンネル
を受信する。

① 他のチャンネルを受信中に**(PRO-PRI)**キーを2秒以上押し続ける。
LCDディスプレイに“P”と“000CH”が点滅し、
350.100MHzを表示します。

② **(5)**を入力する
テンキーまたはアップ・ダウンボタンにより、チ
ャンネルNoを指定します。

③ **(ENTER)**キーを押す
指定したチャンネルでプライオリティ受信を開始
します。3秒間隔でプライオリティチャンネルの信
号検索をおこないます。



④ プライオリティチャンネルに信号(電波)があれば、受信
状態になります。
LCDディスプレイのチャンネルNo表示部に“P”を
表示します。



⑤ プライオリティ受信を解除するときは、**(PRO-PRI)**キーを
2秒以上押し続けます。

ちょっとひと言

- プライオリティチャンネルの信号検出時は、受信中の音声は3秒間隔で途切れますが、こ
れは故障ではありません。

8. 盗聴電波の受信

無線式盗聴器の発信周波数は、特定の周波数帯が使用されています。

無線式盗聴器の発信周波数

- ① FM放送帯：76～90MHz
- ② VHF帯：140MHz帯
- ③ UHF帯：400MHz帯

本機は、無線式盗聴器によく使用されているVHF/UHF帯の43チャンネルを*メモリー登録しています。

*メモリーバンク：バンク⑧のエリアNo⑨にメモリー登録しています。

1. 盗聴電波の受信方法

バンク⑧のエリアNo⑨を呼び出してオートサーチまたはマニュアルサーチします。受信方法は、「**ステップ1**」のエリアをサーチする]P9をご覧ください。

2. 盗聴器の場所の特定

盗聴電波を受信することにより、盗聴器の場所の特定をすることができます。

場所の特定方法

- ① 盗聴電波の強い方向を調べます
LCDディスプレイのレベルメーターがよく振れる方向に進みます。
- ② レベルメーターの振れが最大になったら、ラバーアンテナを外し、さらに電波の強い方向に進みます。
- ③ 電波の発信源(盗聴器)に接近すると、ハウリングが起きます。
数mの位置に近づくとき「ワーン」と大きなハウリング音がします。
- ④ ハウリングが起きた場所をよく調べてください。

ちょっと一言

- 本機は、VHF/UHF帯の無線を使用した盗聴器の発信電波を受信するものです。
- 盗聴器はその性質上、発見が難しい場所やこんなものかと思うものにセットされています。発見が難しい場合や危険を伴う恐れがある場合は、専門の調査機関に依頼してください。

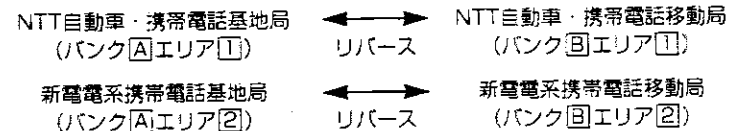
9. ファンクションキーを使用した機能

ファンクションキーと各操作キーとの組み合わせにより、いろいろ便利な機能があります。

操作方法

FUNCキーを押して、LCDディスプレイに「F」が点滅している間(5秒間)に各操作キーを押します。

- ① **FUNC**キー → **LIGHT KEY**キー
LCDディスプレイ及びテンキーのバックライト照明を、30秒間おこないます。
- ② **FUNC**キー → テンキー①または② <リバースモード>
NTT自動車・携帯電話及び新電電系携帯電話を受信中に、基地局と移動局の受信チャンネルを入れ換えます。



例えば、870.0125MHz(バンクAエリア①)を受信中にリバースモードをおこなうと、925.0125MHz(バンクBエリア①)を受信します。

その後は、テンキーの①または②を押す度に、基地局と移動局のチャンネルをリバースします。

ちょっと一言

- ダイレクト受信時(マニュアルモード)は、リバースできません。
- リバースモードをおこなうと、オートサーチが解除されて、そのチャンネルで受信したままになります。サーチさせる場合は、**START/STOP** ボタンを押します。
- リバースモードは受信中のチャンネルのみ有効です。リバース中の受信チャンネルをサーチなどで変更した場合は、リバースモードが解除されます。

- ③ **FUNC**キー → テンキー③

オートサーチ中のディレイ時間をホールドにします。
LCDディスプレイの表示がDELAYからHOLDに変わります。
ディレイ時間をホールドに変えてオートサーチした場合は、一度電波を受信すると、電波がなくなっても、そのチャンネルで受信待ちの状態になります。
受信エリアを変えると、解除します。

④ **FUNC** キー → テンキー ④

オートサーチ中のディレイ時間を6秒にします。
LCDディスプレイに“6 555”を1秒間表示します。
受信中のチャンネルの電波が終了すると、6秒間の受信待ちをした後、オートサーチを始めます。
受信エリアを変えると解除します。

⑤ **FUNC** キー → テンキー ⑤

オートサーチ中のディレイ時間を10秒にします。
LCDディスプレイに“10 555”を1秒間表示します。
受信中のチャンネルの電波が終了すると、10秒間の受信待ちをした後、オートサーチを始めます。
受信エリアを変えると解除します。

⑥ **FUNC** キー → テンキー ⑥ <6秒サーチ>

オートサーチの種類が変わります。
LCDディスプレイの“DELAY”が点滅します。
受信中のチャンネルを6秒間受信した後、オートサーチを始めます。
FUNC キー → テンキー ⑥ で6秒サーチを解除します。

ちょっとひと言

- チャンネルを受信中に **START-STOP** ボタンを押すと、6秒サーチを中断して、そのチャンネルで受信状態になります。再度、**START-STOP** ボタンを押すと、6秒サーチを再開します。

⑦ **FUNC** キー → テンキー ⑦

受信アッテネーター(感度)のON/OFFをします。
アッテネーターをONにすると、受信感度が約15dB減衰します。
アッテネーターがONの時は、LCDディスプレイに“ATT”を表示します。
強い電波を受信した時や、混信がひどい時にアッテネーターをONにします。

⑧ **FUNC** キー → テンキー ⑧

全てのキートーン(ビッ音)を消します。
同じ操作で解除します。

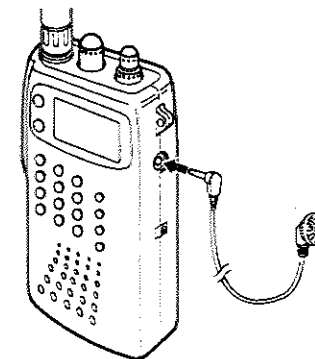
⑨ **FUNC** キー → **▲** (アップ) または **▼** (ダウン) ボタンの押し続け

マニュアル選局時に、1MHzのステップで受信チャンネルを変えることができます。
アップまたはダウンボタンを押している間、1MHzステップでチャンネルが変わります。ボタンを離すと、解除されます。

10. イヤホンで聴く場合

イヤホンでお聴きになる場合は、必ず音量を下げしてから、イヤホンを装着してください。

- ① 音量ボリュームを下げ、付属のイヤホンを本体側面のイヤホンジャック(**EAR**)に接続します。



- ② イヤホンを装着した後、音量ボリューム(**VOL**)を回して適度な音量にします。

ちょっとひと言

- イヤホンを接続すると、本体内蔵のスピーカーからは音が出ません。
- 音量ボリュームが同じ位置でもイヤホンで聴く場合は、スピーカーよりかなり音が大きく聴こえます。イヤホンでお聴きになる場合は、音量に注意してください。

11. 故障とお考えになる前に

ご使用中に異状を感じた時は、故障と思われる前に下記の点をお確かめください。

症状	原因
電源が入らない (ディスプレイが表示しない)	① 電池が消耗している →電池を交換してください ② 電源プラグが奥まで入っていない ③ 外部電源がきていない
音がでない	① 音量レベルが低い ② イヤホンを接続している
受信できない	① スケルチボリュームが右(時計方向)に回り過ぎている →左(反時計方向)に回してください ② 受信可能な距離に入っていない 受信距離は天候や障害物によりかなり変化します
音声が途切れる	① スケルチボリュームが右に回り過ぎている →左に回してください ② 電波が弱い ③ アッテネーターがONになっている →アッテネーターをOFFにしてください ④ プライオリティ受信をしている →プライオリティ受信を解除してください
音声がおかしい	① 受信モードが合っていない →受信モードを変えてください ② 秘話解読モードになっている →秘話解読を解除してください
変な信号音を 受信する	① 制御チャンネルやデジタル通信を受信している →音声での受信はできません
操作キーを押しても 動作しない	① キーロック(ON)状態になっている →キーロックを解除してください ② マイコンが暴走している →電源をOFFにし、乾電池およびACアダプターを取りはずしたのち、再度セットしてから電源をONにしてください(マイコンをリセットする)
サーチ・スキャンを しない	① スケルチボリュームが左(反時計方向)に回り過ぎている →右(時計方向)に回してください

12. 主な仕様

- 受信周波数 108.0~170.0MHz
322.0~452.0MHz
770.0~999.995MHz
- 受信電波方式 AM/FM
- 周波数ステップ 5/6.25/10/12.5/25/50KHz
- メモリー数 エリアメモリー 1エリア
チャンネルメモリー 200チャンネル
バスメモリー 150チャンネル
プライオリティ 10チャンネル
- 受信感度 AM 1.0 μ V S/N 10dB
FM 0.5 μ V 12dB SINAD
- アンテナインピーダンス 50 Ω
- 電源電圧 DC4.5V 単3乾電池3本
DC12V 外部電源
- 消費電流 80mA 無信号時
- 動作温度範囲 -10 $^{\circ}$ C~+60 $^{\circ}$ C
- 外形寸法 63(W) \times 30(D) \times 115(H)mm
(突起部含まず)
- 重量 150g (アンテナを含まず)

メモ

メモ

メモ

保証規定

1. 保証期間内(お買い上げ日より1年間)に、正常な使用状態において万一故障した場合には無料で修理いたします。
2. 保証期間中に修理を依頼される場合は、本機に保証書を添えて、お買い上げ販売店にお持ちください。
3. 次のような場合には保証期間内であっても有料修理となります。
 - (イ)使用上の誤り、本機に改造を加えたことによる故障、またはお買い上げ店以外で修理されたことによる故障
 - (ロ)お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障や損傷
 - (ハ)火災、地震、水害、公害、規定外の電源(電圧・周波数)の使用、その他天災地変などによる故障および損傷
 - (ニ)保証書のご提示がない場合
 - (ホ)保証書の指定事項の未記入、あるいは字句が書き換えられている場合
4. 本保証書は、日本国内においてのみ有効です。

修理メモ